

【学習のねらい】

資料「病院の待合室で」の、Aさん・Bさん・第三者のそれぞれの立場に自分をおいて、自分自身の行動のあり方を考える。

【進め方】

- (1) 資料を読んで、グループ内で感想を語り合う。
- (2) 自分にどのような行動がとれるかを話し合う。
 例えば、Bさんがなぜ黙ってその場から席を立ったのか考え合いながら、
 - ・ Aさんの「それは、どういうことですか？」以外の言葉かけのあり方について考える。特に、Bさんをその場から立たせないで、言葉の中にある差別意識について語り合うための言葉かけについて話し合う。(私メッセージP28参照)
 - ・ Bさんがそのまま席を立たないでいるとしたら、B「……………」の後に、Aさんはどう話し合えばよいか語り合う。
- (3) 全体でグループ内の話し合いを共有し合う。

【留意点】

- (1) 「あの人たちとは一緒にしないで…」とあえて違いをつけるBさんの意識を、自分と重ね合わせて、話し合いたい。
- (2) 被差別部落の存在は、このような日常的な会話や行為によって広められていったことに、気づき合いたい。
- (3) 日常的なコミュニケーションのあり方を考え合いたい。



自分の考えを出し合い本音のグループ討議

病院の待合室で

Aさんは体調を崩し、病院通いをしていました。前回顔を合わせたBさんと今回も会ったので待合室で話しかけてみました。

A 「この間も会いましたね。もしかしたら〇〇町の人じゃないですか。」

B 「たしかに〇〇町だけど…。 あんたはどこだね。」

A 「やっぱり。私も〇〇町なんです。お会いしたことがあるように思うんですが、お宅はどちらですか？」

B 「◇◇（同和地区を含む自治会名）だけど、あの人たちとは一緒にしないで欲しい。」

A 「それは、どういうことですか？」

B 「 」

Bさんは、黙ってその場から席を立ちました。

